

横屋・宮ノ前遺跡 説明会資料

平成21年6月13日
兵庫県立考古博物館

はじめに

(一)加美・八千代線(天船バイパスI期)事業に伴い、兵庫県立考古博物館では、平成21年5月後半より横屋・宮ノ前遺跡の発掘調査を実施しました。今回の発掘調査では、弥生時代後期頃(約1800年前)と平安時代前期(約1100年前)の集落跡を確認しました。お蔭を持ちまして発掘調査も終盤に差し掛かりましたので、地域の皆様に調査成果をお知らせしたいと思います。



遺構検出の様子

黄色い基盤層のところどころに、暗褐色の土が入っている部分が穴が掘られ埋まった痕跡です。ただし、木の根や動物の巣穴も似たような痕跡が残ることもあるため、穴を縦に断ち割って土層断面を検討します。



調査区全景(東から)



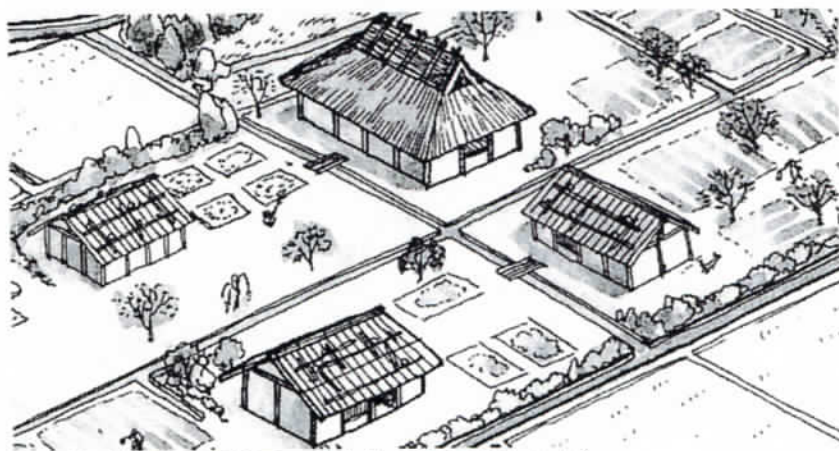
調査区東半部（北から）



調査区西半部（北から）



柱穴の断ち割り土層断面（東から）



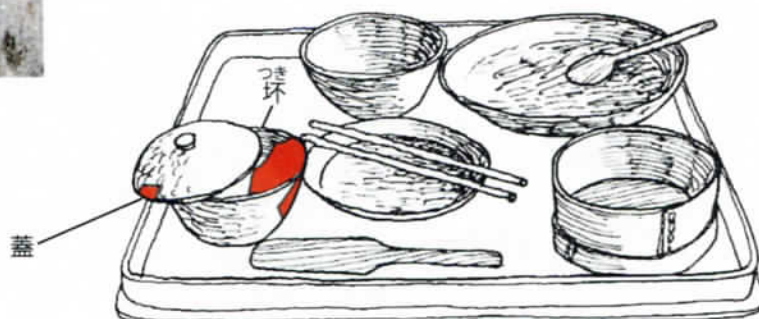
掘立柱建物跡（想像図；『古代史発掘10』より）



土坑（北から）



出土した平安時代の食器（蓋（左）と^{つき}坏（右））



古代の食器（想像図；『日本人のすまい』より）